

防災士

防災士研修講座のご案内



私たちも防災士です。

防災士は、家庭や職場、地域の防災力向上の資格です。—— 助けられる人から助ける人へ



Bousaishi Training Center

防災士研修センター

日本防災士機構認証研修機関

オリジナルの学習教材と各分野の著名な講師陣による



防災士研修センターは「防災士制度」発足以来、全国各地で500回以上の研修を実施し、高い評価と信頼を得ております。

充実の授業内容

2日間の座学を受けることで防災に関して必要な一般知識と地域特性に関する知識が身につきます。受講生同士で話し合いながら取り組む演習では、さまざまな意見・視点を知るだけでなく、同じ志を持つ仲間と出会えます。

安心の合格率90%以上

幅広い年齢の方が安心して試験に臨めるように、当センターオリジナルの教材（事前学習レポート／試験対策ブック）をご用意しております。オリジナル教材で学習することにより、教本全体を学習できるだけでなく、実際の試験と同じ形式での学習が可能です。

講師は、防災界を代表する方々です (50音順)



青山 侑
明治大学公共政策大学院教授
元東京都副知事



市澤 成介
株式会社ハレックス部長
元気象庁予報課長
日本災害情報学会理事



伊藤 和明
防災情報機構NPO法人 会長
元NHK解説委員



伊藤 みゆき
NHKラジオ気象キャスター
日本気象学会
天気予報研究連絡会委員



ト部 厚志
新潟大学
災害・復興科学研究所
環境変動科学部門准教授



尾池 和夫
京都造形芸術大学学長
前京都大学総長



岡本 正男
社団法人全国治水防
協会理事長



上村 靖司
長岡技術科学大学
機械創造工学専攻教授



河田 恵昭
関西大学
社会安全学部特別任命教授
人と防災未来センター長



国崎 信江
危機管理アドバイザー
危機管理教育研究所代表

る授業が、防災知識の向上と今後の活動を支えます。

研修モデルプログラム（参考例）

※下記内容は参考例です。各研修会場によって時間及びカリキュラムは異なります。

1日目

9:00	受付	受付の際に事前課題提出（履修確認レポート）
9:15～9:30	オリエンテーション	防災士研修の流れや資格取得試験・防災士認証登録に関する説明
1時限目 9:30～10:30	防災士の役割	防災意識の啓発、防災訓練等、防災士に期待される役割について、実際の防災士の活動を交えつつ学ぶ
2時限目 10:40～11:40	地震のしくみと被害	4つの巨大プレートの上に存在する日本。避けられない地震発生のメカニズムや想定される被害等、巨大地震とその対策について学ぶ
3時限目 11:50～12:50	近年の自然災害に学ぶ	地球環境の変化に伴い、近年多発している気象災害や自然災害に関して、実際に起きた災害事例をもとに理解を深める
12:50～13:50	昼休み	防災ビデオの上映（視聴は任意です）
4時限目 13:50～14:50	土砂災害と対策	日本の国土には52万ヶ所を超える土砂災害危険箇所がある 土砂災害の種類や、発生しやすい地盤・地質、誘因となる地震や豪雨との関連を学ぶ
5・6時限目 15:00～17:10	避難所の開設と運営 (講義と演習)	当センター開発のグループワーク形式の実践型演習。巨大災害時は被災者自身で避難所を運営する必要に迫られるため、実際に起こりうる問題を想定し、どう解決するか討議することで、避難所運営の基礎を学ぶ

2日目

9:00	受付	会場にて受付
9:15～9:30	防災士制度の紹介	防災士資格10年の歩みを紹介するビデオの上映
1・2時限目 9:30～11:40	ハザードマップと 災害図上訓練 (講義と演習)	地震や豪雨災害を想定し、発生後にどんな被害が起こるのか、被害軽減のためには事前にどんな対策が必要かを、地形図と被害想定図を用いてグループ討議を行う 地元地域でも実践可能な災害図上訓練の方法を理解する
3時限目 11:50～12:50	風水害と対策	風水害の発生しやすい状況や、天気予報などから得られる情報の意味を正しく理解し、災害への対策や避難方法を学ぶ
12:50～13:50	昼休み	防災ビデオの上映（視聴は任意です）
4時限目 13:50～14:50	災害と危機管理	危機の種類や危機管理活動の分類等の基本的なことだけでなく、危機管理を担当した講師の実体験に基づいた講義から危機管理の本質を学ぶ
5時限目 15:00～16:00	耐震診断と補強	耐震基準の整備されてきた歴史や、阪神・淡路大震災等の被害を交えて、日本で何故耐震補強が重要なのかを学ぶ
6時限目 16:10～17:10	身近で出来る防災対策	家具固定や備蓄のポイント、安否確認の方法など、家庭や職場、地域ですぐに実践できる防災対策の重要なポイントと方法を学ぶ
17:30～18:30	防災士資格取得試験	制限時間は50分間／全30問出題／解答を終えた方から退出が可能



隈本 邦彦
江戸川大学教授
名古屋大学
減災連携研究センター客員教授



坂本 京子
山口大学大学院
創成科学研究技術術補佐員
気象予報士



佐藤 公
静岡山噴火記念館副館長



志方 俊之
帝京大学法医学部名譽教授
元陸上自衛隊
北部方面總監



杉田 学
順天堂大学総合病院
救急・集中治療科長・
先任准教授



陶野 郁雄
日本災害情報学会名譽会員
元山形大学教授



西村 明儒
徳島大学大学院
医薬薬学研究部医学科部門
社会医学系医学分野教授



秦 好子
元横浜市消防局消防監
社会貢献学会理事



廣井 悠
東京大学大学院
工学系研究科准教授



福和 伸夫
名古屋大学
減災連携研究センター長・教授

お申し込みから防災士資格取得までの流れ

防災士研修講座は「自宅学習（履修確認レポート／試験対策学習）」と「会場研修」の2本立てで構成しています。

STEP 1 受講申込

1

受講申込

①ご希望の研修会場をお選びください。

最新の会場状況は、ホームページまたはお電話でお問い合わせください。

②ホームページまたはFAXからお申し込みください。

③郵便局備え付けの用紙（払込取扱票）にて受講料を振り込んでいただくと、受講登録完了となります。

受講される研修コース名を明記してください。

〈記入例〉

払込取扱票	振替払込請求書兼受領証
00	0012046
628889	60920
防災士研修センター	防災士研修センター
料金	料金
大宮4月コース 受講料一式	千代田区永田丘1-5-2 防災太郎
100-1000 千代田区永田丘1-5-2 防災 太郎	03-1000-1000
印	印

あなたの住所、お名前をご記入ください。

STEP 2 自宅学習

2

自宅学習

①研修の3～4週間前に教材が送付されます。

「防災士教本」の他に「履修確認レポート」「試験対策ブック」が届きます。届いた教材をもとに事前課題（履修確認レポート）へのお取組みと試験に向けた自宅学習をお願い致します。

②事前課題は研修初日にご提出いただきます。

救急救命講習の受講をお願いします。

※会場研修の受講終了後でも問題ございません。



STEP 3 会場研修

3

+
資格取得試験

①予約された防災士研修講座を受講します。

会場ではさまざまな分野で活躍されている著名な講師陣の講義を受講いただき、災害のしくみや防災士としての役割等について学んでいただきます。研修プログラムは各会場ごとに地域特性を考慮し、座学と演習の2種類の講義が実施されます。



②防災士資格取得試験を受験します。

研修2日目の最後に資格取得試験が実施されます。

試験範囲：該当年度の防災士教本内

出題数：30問（三択形式）

試験時間：50分

※万が一、試験に不合格になった場合は、近隣会場で再試験が可能です。

STEP 4 認証登録

4

申請

防災士資格取得には

- 防災士研修講座の受講（履修確認レポートのご提出 + 会場研修2日間）
- 救急救命講習の受講
- 防災士資格取得試験の合格

の上、申請に必要な書類のご提出が必要となります。

日本防災士機構に認証登録申請をすることにより、

防災士台帳に登録され、防災士としての第一歩が始まります。

※書類の提出は研修会場でも可能ですので、必要書類が事前に揃う方は、会場でのご提出をお勧めいたします。

※認証登録の申請後、防災士資格認定証一式がお手元に届くまでに時間がかかる場合がございます。

お仕事や就職活動等で期限がある方は、ご注意ください。



古村 孝志
東京大学地震研究所教授
公益社団法人
日本地質学会副会長

牧 紀男
京都大学
防災研究所教授

松井 一洋
広島経済大学経済学部
メディアビジネス学科教授

村上 仁士
徳島大学名誉教授
NPO法人規模災害
対策研究機関副理事長

村野 淳子
別府市企画部危機管理課
防災推進専門員

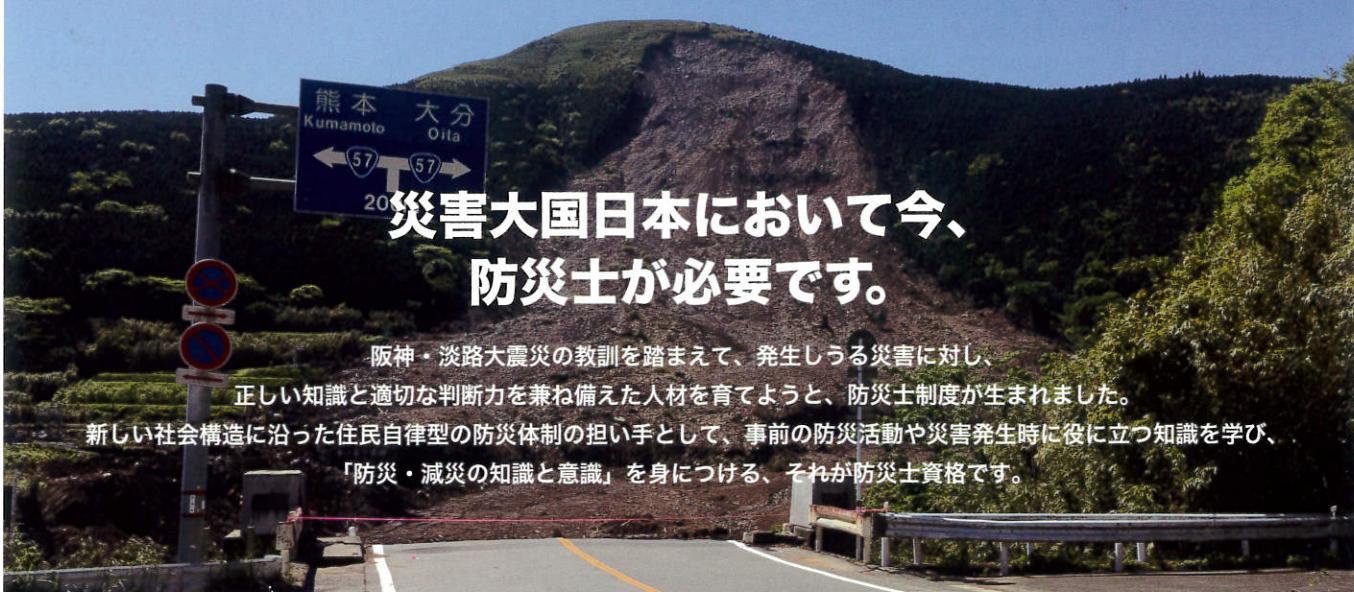
室崎 益輝
兵庫県立大学防災教育センター長
神戸大学名誉教授

目黒 公郎
東京大学大学院
情報環境合併災害情
報研究センター教授

矢野 良明
元気象庁銚子気象台次長

山岡 耕春
名古屋大学
地震火山研究センター教授
公益社団法人日本地質学会会長

山本 晴彦
山口大学大学院
創成科学研究科教授



災害大国日本において今、 防災士が必要です。

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、発生しうる災害に対し、

正しい知識と適切な判断力を兼ね備えた人材を育てようと、防災士制度が生まれました。

新しい社会構造に沿った住民自律型の防災体制の担い手として、事前の防災活動や災害発生時に役に立つ知識を学び、「防災・減災の知識と意識」を身につける、それが防災士資格です。

家族を守りたい



- 子供たちにも防災の知識を伝え、家族が安全に暮らせるようしたい
- 日中の被災も意識した女性視点の防災対策を考えたい
- タワーマンションに暮らしており、巨大地震等に備えておきたい

地域を守りたい



- 高齢者、障がい者、外国人…みんなが安全に暮らせる街づくりを目指す
- 消防団・自主防災組織での、地域防災に対する取り組みをより良いものにしたい
- 避難場所となる公園や公共施設の在り方を市民視点からも考えていきたい

職場を守りたい



- 社内の防災担当に任命されたが、何から始めればよいかわからず悩んでいた
- 商品開発、提案、販売のために防災知識を身に着けたい
- 会社施設内だけでなく、周辺地域を意識したBCP策定に取り組んでいきたい

家庭で 活躍する防災士



- 保育園や学校と協力して安否確認方法の取り決めや避難訓練を始めた
- 小中学生向けの防災授業や、防災宿泊学習に取り組むようになった
- 災害時でもおいしく食べられるレシピを考えるなど、女性視点の対策を事前に始めるようになった
- 近隣住民と親睦を深め、管理組合と協力してマンション単位での避難訓練を行っている

地域で 活躍する防災士



- 避難する際に手助けが必要な人を意識した防災訓練を行うようになった
- 地元消防署と協同して町内全体で定期的な防災訓練を始めるようになった
- 町内の防災士と協力して、研修講座で学んだ災害図上訓練や避難所の運営の講習会を始めた
- 災害時の対応マニュアルを作り、訓練を繰り返して避難方法を確認するなど、町内の防災力向上を目指している

職場で 活躍する防災士



- 社内の備蓄品を見直し、防災マニュアルを作成した上で、会社全体での防災対策を始めた
- 災害を理解することで、お客様に必要とされる防災用品の開発や提案が出来るようになった
- メディア関係者として視聴者や読者へわかりやすく伝える方法を見直す基礎が出来た
- 近隣住民と協力して被害を想定し、合同で防災訓練を始めるようになった

「守りたい」その気持ちが防災士への第一歩です

今後発生するであろう巨大地震及び、頻発する気象災害に対して何ができるのか。

災害は突然やって来ます。必ず来る「その日」に、あなたが最善を尽くせる為に、

そして、過去の災害を教訓だけに留めない為に、

防災・減災の知識と意識を身に付け、防災活動の第一歩を踏み出してみませんか。

防災士は日本全国でそれぞれの分野での防災・減災に向けた活動に取り組んでいます。

現在、防災士として活躍されている方のなかには、当初「防災に対して何をすれば良いかわからない」という悩みをお持ちの方が多くいらっしゃいました。防災士研修講座には防災に関する知識だけでなく、その取り組みのヒントが詰まっており、受講後の感想には「災害に備える考え方の基礎が出来た」「まず何を始めれば良いのか分かった」との声がたくさんございます。防災士研修講座は皆様の今後の防災・減災活動への確かな道標となります。



お申込み前に



助成制度の有無をお住まいの市町村役場窓口へお問い合わせください

全国の自治体では地域防災力強化のために、さまざまな取り組みが行われています。防災士資格取得についても助成金を交付し、住民の皆様の防災士資格取得を支援されている自治体が多くございます。ぜひお申込み前にお住まいの自治体窓口へ助成制度のご確認をお願いいたします。

また、防災士研修を地元で開催することも可能です。地域や職場の防災力向上の担い手として、ぜひお住まいの地域での開催もご検討ください。

※自治体によって助成制度の内容が異なっており、全ての住民の方が助成の対象となるわけではありません。

また、制度の運用を終了されていた場合はご容赦願います。詳細は各自治体担当窓口までお問い合わせください。

※開催には諸条件がございます。お気軽にお問い合わせください。

防災士資格取得までの費用合計

60,920円

(税込み)

防災士研修講座受講料 49,000円+税
防災士資格取得試験受験料 3,000円
防災士資格認証登録料 5,000円

■資格取得に関する特例について

消防署で消火、救助救急の実務を経験された消防吏員の方（退職の方を含む）、あるいは、日本赤十字社の所定の教科を修了し、赤十字救急法救急員の資格を得られている方々には防災士資格の取得につきまして特例規定が適用されます。詳しくは日本防災士機構までお問い合わせください。

■受講コースの変更

1.会場研修初日の前日より起算して8日目以前に、1回に限り変更可能です。（変更先は、お申し出があった時点で申込受付中のコースに限ります。）

2.会場研修初日から起算して7日目以内、あるいは急なご都合で会場研修期間中にコースを変更をされる場合、防災士資格取得試験受験料3,000円について、再度お支払いいただきます。

※変更後の受講コースに出席できない場合は受講登録の取り消しとなり、取消料がかかります。
(受付日により金額が変わります。取消料額は右記表示の通りです。)

■受講登録の取り消し

受講登録の完了後、受講者ご自身の都合で受講を取り消される場合は、右記の金額を取消料として申し受けます。

■在籍期間について

会場研修未修了、防災士資格取得試験未受験、防災士認証未登録の受講者様は、当該年度末（毎年3月31日まで）が在籍期間となり、その間に限り、適宜コース案内・試験案内・登録のお願い等を当センターより送付いたします。それ以降は在籍期間失効となりますので、受講・受験・登録につきましては早目にご連絡ください。（在籍期間失効後は登録料等の返金には応じかねますのでご了承ください。）

学生の方には学割適用！一般受講料 49,000円

防災士研修受講料に50%学割。24,500円+税

※別途受験料・登録料が必要になります。

取消受付日	取消料
21日目以前に取消通知をされた場合	5,000円
20日目～8日目の間に取消通知をされた場合	10,000円
7日目～前日に取消通知をされた場合	20,000円
会場研修当日以降に取消通知をされた場合および取消通知をされなかった場合	55,920円

取消受付日は受講登録された研修コースの会場研修初日の前日から起算します。

※お振込いただいた金額から上記取消料と振込手数料を差し引いて返金いたします。